

# 認知症バリアフリー情報交換会及び交流会



公益社団法人 認知症の人と家族の会  
代表理事 鎌田松代

# 「あなたは認知症です」 の診断の持つ意味



# 絶望

思い描いていた人生がぐずれ落ちる

—それは認知症の人も家族も—



## ○この病名を受けると生活が一変します

- 車の運転が道路交通法上できなくなるので、運転免許証は返納です。
- 行動範囲は狭まり、社会（人）との交流も減ります
- 仕事に支障が出ている場合は、迷惑をかけていると退職を考えます。それに伴い世帯の経済も困窮します
- 「認知症=人生は終わった」の誤解や偏見で社会は見ます（家族や認知症の人も、誤解や偏見を持っている場合もある）

# 生活の大きな変化や、認知症の人や家族の 絶望やショックを知ってほしいです



# 共生社会の実現を推進するための認知症基本法への「希望と期待」

認知症の人や家族が中心の当事者団体「認知症の人と家族の会」はこの法律の成立にあたり声明を出しました

2023年6月

- 「認知症になっても安心して暮らせる社会」実現に向けての大きな第一歩」
- 日本における認知症への基本的な考えが明示され、認知症になっても安心して暮らせ、認知症の人とその家族も認知症とともに自分らしい人生を歩むことができる社会づくりへの大きな一歩を踏み出した法律
- 今後、認知症に関してのさまざまな取り組みが大きく前進すると期待



# 当事者参画

## 国の基本計画案より

(認知症の人や家族等が地域で自分らしく生活できるようにする)

○ 共生社会の実現に向け、基本理念に沿って施策を推進していくにあたり、**誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え**、認知症の人や家族等、保健医療福祉の関係者だけでなく、広く国民が「新しい認知症観」を理解する必要がある。そして、**認知症の人と家族等の参画・対話**をもとに、**施策を立案、実施、評価**し、地域住民、教育関係者、企業等地域の多様な主体が「新しい認知症観」に立ち、それぞれ自分ごととして、連携・協働して施策に取り組む必要がある。



# 対話

○対話は双方向での交流

○これまでのご意見・ご要望を聞きましたにとどまらず、双方が話を聴きながら考え、創り上げ、評価し、再検討しまた創っていく参画につながっていく



## 国の基本計画より

### 基本的施策の推進

国及び地方公共団体は、認知症施策のとして、基本法第14条から第25条までに規定する基本的施策を中心に取り組むとともに、地方公共団体はこれに加えて創意工夫しながら、**地域の実情や特性を活かした取組を認知症の人の声を起点とし、認知症の人の視点にたって、認知症の人と家族等とともに推進**することが重要である



pixta.jp - 32654510

大府市 認知症ヘルプマーク



○認知症バリアフリー宣言企業の増加や認知症バリアフリーに向けた商品・サービス開発に関わり企業や担当職員様の認知症をどう見ておられるかを知ることができ、対話によって相互の理解が進みました

○対話の重要性です

○認知症や認知症の人への知識学習は大事ですが、そこに対話に加わると人とひととして見えてくることが多くありました

○共生社会の実現に向けての確実な歩みがこの事業からも進んでいます

○認知症の人や家族にとってはこの事業に参画する意義は大きいです

○それは認知症の診断で途切れがちになる社会との接点ができることです。

○アイデアや意見、考え、できる能力が活かされ商品やシステム・仕事となり、社会の役に立っている実感や認知症とともに前向きに生きることにもつながります。

○認知症の人のいきいきさは家族の元気に、認知症の人や家族双方の明るい希望に参画はなります

○共生社会は誰もが輝き、自分らしく生きる社会です

○共生社会の実現は  
認知症やその人を理解する  
ことから…

○当事者の声に耳を傾け、  
対話しながら、共に創る

2021  
本人MTG  
ながの



長野県支部で開催の本人交流会  
「花火をつくってみたい」の**本人の声から花火職人の指導でつくった花火**

